

第4号様式（第10条関係）

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	令和3年度第2回武蔵村山市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会
開 催 日 時	令和3年7月29日（木） 午後2時00分 ～ 午後4時00分
開 催 場 所	武蔵村山市民会館（さくらホール）展示室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：倉持会長、森林副会長、内野委員、北原委員、齋藤委員、植村委員、高橋委員 事務局：企画政策課長、企画政策課係長、企画政策課主任 事業所管課：子ども青少年課長、児童担当課長、子ども子育て支援課長、交通企画・モノレール推進課長、交通企画・モノレール推進課係長
報 告 事 項	○ 所管課職員の出席について
議 題	1 令和2年度末におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について（基本目標2及び基本目標3） 2 その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	1 議論した意見を資料として取りまとめることとした。 2 特になし。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。) (発言者) ○印=委員 ●印=事務局 ▲印=事業所管課	報告事項 所管課職員の出席について (事務局説明) 第1回に引き続き、所管課職員が出席する旨、報告した。 議題1 令和2年度末におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について（基本目標2及び基本目標3） (事務局説明) 資料2及び3に基づき令和2年度末におけるまち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について説明した。 —質疑・意見等— 【基本目標2】 ○ ワーク・ライフ・バランスの推進について、実績が0件だが、具体的にはどういった取組をしているのか。 ● 令和3年度に認定制度を設ける予定であり、制度創設に向けた検討を実施していた。 ○ 制度ができていないのであれば、他の事業では検討や推進などの表現の方が良いのではないか。 ● 目標として数値を掲げているため、「0件」と表記した。 ○ 市内でワーク・ライフ・バランスを推進している事業所はありそうか。 ● 所管課からはいくつかありそうだと聞いている。 ○ 保育士の中堅職員の離職が続いていると課題に記載があるが、理由を把握しているか。 ▲ 離職の理由を個別に把握はしていないが、短大や大学を卒業後、結

婚や出産を機に離職される方が多いと保育事業所から聞いている。

なお、子育てが落ち着いた後、非常勤職員として復職するケースもあるようである。

- 離職理由に対する対策の予定はあるか。
- ▲ キャリアに応じた賃金増額に対する補助や宿舍の借上に対する補助等を実施し、継続的に働いてもらえるよう努めている。
- 不登校児童・生徒への対策について、在宅でのオンライン授業の実施は検討しているのか。
- 所管課からオンライン授業を実施していると聞いてはいないが、スクールカウンセラー等を配置し、生徒や児童の意見を聞くことが第一歩である。
- ハグはぐ・むらやまの取組について、非常に良い取組であると思う。目標も達成しているため、積極的に周知していただきたい。
子育て世代包括支援センターの場所はどこか。
- ▲ 令和元年度まではお伊勢の森分室であったが、令和2年度からは子ども家庭支援センターと統合したため、市民総合センター2階となった。
- 子ども家庭支援センターと連携できるため良いと思う。
次に、市役所男性職員の育児休業取得率の向上について、現況値と比較し、数値が向上しているため、非常に良かったと思う。
具体的に育休を何日程度取っているか把握しているか。
- 把握していないため、所管課に確認しお伝えする。
- 取得期間が日にち、週、月の単位で印象が大きく変わってくる。
また、参考となるので、取得率が上がった手段を併せて教えていただきたい。
- 不登校児童・生徒への教育相談等支援率や不登校出現率について、全国平均や東京都平均と比較し、どの程度なのか教えてほしい。
- 数値については、持ち合わせていないため、所管課に確認次第、お伝えさせていただく。
- G I G Aスクール構想でタブレット端末を配布していると思うが、不登校児童・生徒に対するオンライン授業は実施しているか。
- 自宅にインターネット環境が整っていない家庭もあると想定されるため、令和3年度、試行的にWi-Fiルーターの貸出を実施するという話は聞いている。
- 英語検定について、具体的にどのような内容なのか。
また、受験率や合格率を教えてほしい。
- 中学3年生を対象に子どもたちの英語学習に対する意欲向上のために実施している。受験については、希望制としており、会場は学校で実施している。
令和2年度の合格率は、286人が受験しており、140人が合格しているため、約49%である。
- T O E I Cなどでは、新型コロナウイルス感染症の影響で受験者数を制限しているそうだが、英語検定は受験者の人数制限はしているのか。
- 受験会場が準会場という扱いになり、学校の教室で受験しているため、人数制限は実施していない。
- 受験率下がったと記載があるが、誤差の範囲である。それよりも受験率向上のための周知方法はどのようになっているか。
- 対象となる学年に教員から声をかけており、教員の裁量による部分が大きい。

- 受験料はかかるのか。
- 受験料は公費負担である。
- 学校自体が受験率を向上させたいと思っているのか。
- 教育委員会はより多くの生徒に受けてもらいたいと意欲は持っている。
- 以前、保護司をやっていたが、当時、担当地域は非行が多かった。最近の状況はどうか。
- 状況を把握していない。
- 教育委員会が中原地区集会所を活用し、不登校などの生徒の授業をしている。地区会館を利用されると地域の人が利用できなくなってしまう。地域活動を行える場がもう少し増えると良いと思う。
- 新しい施設を作ることが難しいので、空き家の活用などは考えられる。所有者等がいるため、すぐ活用するという事は難しいが、将来的には活用も考えられる。
- 空き家については、前回の会議でも話があったが、様々な分野で空き家の活用は検討されている。
空き家バンクなど市で前向きに取り組めると良いと考える。
- 現在、空き家に対する市の取組や動きはあるか。
- 現在は、都市計画部門で空き家対策を進めていく予定である。今後、国などの動向も確認しつつ、検討していくことになる。
- 子どもの未来応援プランの推進について、調査未実施となっているが、調査の具体的な内容を教えてほしい。
- ▲ 子どもの未来応援プランを策定する際に実施したアンケート調査であるが、所管課が出席していないため、詳細はお答えできない。
- 子どもの未来応援プランは、貧困対策の一環でもあるため、子どもたちに夢を持ってもらいたいことがあり、調査項目の一つになっている。
- 子どもの貧困対策について、具体的に何か取組はあるのか。
- 子どもの未来応援プランの中で、各種施策が記載されているので、一つ一つ取り組んでいく。
- ▲ 子ども食堂での支援も取組の一つである。
- 子どもの貧困については、昨年度から新型コロナウイルス感染症の影響でスポットが当てられている。各地で子ども食堂やフードバンクの取組が活発であるが、武蔵村山市ではどのような動きがあったのか。
- 今年度フードバンクを実施するが、フードバンクで食品は集まるが、その食品をもらいに行くことが大変であったり、周りの目が気になり取りに行けないという声を聞いたことがある。
- ▲ フードバンクや生理用品の配布などについては、個人情報の関係で対象者をお知らせできないのがネックである。
また、子ども食堂を実施している団体が子ども宅食を開始し、レトルト食品などを配布しているが、誰に配布するのか把握するのが一番難しいと聞いている。
そのため、子ども子育て支援課としては、広報のチラシを支援している家庭に配布するなど取り組んでいる。
フードバンクについては、取りに行けない方もいるが、生活能力が低い家庭もあり、子どもに食べさせなければならないことすら分かっていない家庭があることが問題と考えている。
- 行政側から対象者の情報を提供することは難しいため、民生委員や地域包括支援センターなど地域で活躍する方々の情報の活用や届けて

もらうような取組が必要である。

取りに来てもらう方策については、他人の目が気になる部分がある。

子ども食堂については、まちの食堂として実施していたり、子ども限定や貧困の子ども限定など様々な実施形態がある。限定してしまうとフードバンク同様、周りの目を気にして行けないということがあるのかもしれない。

限定しない取組や周りから見られない仕掛けが必要であると考え

- 夏休み期間に子どもたちを支援する取組はあるか。
- ▲ 夏休み期間中、支援する取組はないが、子ども食堂やフードバンクなどの情報はお知らせしている。
そういった家庭には、訪問等手厚く支援をしており、難しい状況ではあるが、一つ一つ支援していく。
- そういった家庭に対する訪問等は、誰が対応しているのか。
- ▲ 子ども家庭支援センターの職員で対応している。
- 行政と地域の団体や方々と連携し、貧困家庭の支援ができると良い。
また、地域のボランティア団体については、社会福祉協議会で把握しているかもしれない。
- ▲ 民生委員が把握している部分もあるが、社会福祉協議会がフードバンクを実施しているため、相談に行きやすいと考える。
- 学校など教育関係との連携を行えば、更なる支援ができる可能性があると考え。
- ▲ 福祉総務課で実施している生理用品の配布についても、クラッカーなどの防災用品も合わせて配布し、支援している。
- 絵本の読み聞かせ事業についても、オンラインなどを検討すると良いと考える。

【基本目標3】

- 御質問頂いていた市内循環バスのルート決定のプロセスと市民説明会及びパブリックコメント後の進め方について先に御回答する。
- ▲ 現在のルートは、平成25年4月から運行を開始しており、地域公共交通会議で審議を行い、見直しについて決定したものである。
変更から年月が経つとルートごとの利用者数や利用者からの声などが集まってきて、担当課からルート変更について話を上げていくことが多い。
事務局側でルート案を作成し、タクシー事業者やバス事業者、公募委員などで組織する地域公共交通会議に案を示して、審議・決定後、市としての決定をしていく。
新たなのルートについては、令和2年度に市民アンケート、令和3年度に市民説明会やパブリックコメントを実施し、再編に向けて進めているところである。
なお、パブリックコメントで御意見を頂いたのは37名であり、主な意見としては、路線を廃止しては困る、存続してほしいといった内容である。
また、一部地域においては、路線を廃止する案となるが、代替手段として乗合タクシーのエリア拡大を予定しており、こちらについては、賛成といった意見をいただいている。
今後の動きであるが、令和3年8月中に開催予定の地域公共交通会

	<p>議で御審議いただき、決定を頂ければ法定手続等を行っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 予定どおり決定した場合は、いつから新しいルートになるのか。 ▲ 令和4年度からの再編を予定している。 ○ 対象地域のため説明会にも参加したが、費用対効果のこともあるので、基本的には賛成である。廃止路線の地域であるが、乗合タクシーの利用ができるようになるので、地域の人にとってはメリットの方が大きいと感じている。 <ul style="list-style-type: none"> 市外の方が廃止路線の地域に来ることが難しくなるため、地域活性化は難しくなるかもしれない。 ○ 路線の決定については、難しい判断であるが、市外の方からの意見はあったか。 <ul style="list-style-type: none"> ▲ 市民説明会やパブリックコメントでは出ていない。 <ul style="list-style-type: none"> 市外からの人を呼び込むという意味では、市内循環バスは重要であると捉えている。多摩都市モノレールの延伸に合わせて、市内循環バスや乗合タクシー、民間バスも含めて、大きな視点で公共交通の再編が必要であると考えます。 ○ 中原地域は、市役所にも総合センターにも行くバスがない。なぜ、そのようなルートになったのか。 <ul style="list-style-type: none"> ▲ 資料がないため、明確な回答ができないが、様々な御意見をいただきながら再編を慎重に行っていくべきだとは考えている。 ○ ルート再編は非常に難しい問題であるが、利用者数の問題で再編の話になったのかもしれない。再編から年数が経つと高齢化も進むので、見直しの際はこうした現状も踏まえて、御検討いただきたい。 ○ 新型コロナウイルス感染症の影響もある中で、健康教室等に人を集めることは難しいと思うが、今後はどのように進めていくのか。 <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度、緊急事態宣言が初めて発出されたときには、人を集めることができない状況であったが、1年間で対策等を含めて何ができるかが少しずつ見えてきた。そのため、やり方や感染症対策など検討しているところであると思われる。 ○ 市役所に来る際は、上北台から市内循環バスに乗ってくるが、いつも混んでいる。ルートによって差が激しいということか。 <ul style="list-style-type: none"> ▲ 市内循環バスについては、玉川上水ルート、上北台ルート、武蔵砂川ルート、西ルートの4ルートある。 <ul style="list-style-type: none"> 玉川上水ルート、上北台ルートに比べ、武蔵砂川ルート、西ルートの利用者は5分の1にも満たない。利用者1人当たりの市の負担額についても3～4倍程かかっている。 ○ 統合型地域スポーツクラブについて、具体的にどういった取組をしているのか。 <ul style="list-style-type: none"> ● ストレッチ教室やキッズダンス、グラウンドゴルフなど多種多様な活動をしている。 ○ 会員数が減少した理由を教えてください。 ● 年数が経過し、様々な理由で参加できなくなった方が会員としてカウントされていたため、会員数を整理したためである。 ○ 武蔵村山市民は車に乗る機会が多く、都内の人に比べ、歩く距離が短いため、体力が低いというデータがあったと思うが、データを把握しているか。 <ul style="list-style-type: none"> ● そういったデータは目にしたことがない。 ● お互いさまサロンの参加者の健康づくりはどうか。 ○ お互いさまサロンについては、元気な方が参加している。新型コロナウイルス感染症の影響で活動できなくなってしまったため、お互い
--	--

	<p>さまサロンによる健康の維持は難しくなっているかもしれない。</p> <p>○ お互いさまサロンについては、新型コロナウイルス感染症の影響下でも設置数が増えている。地域ではニーズがあると思うし、介護予防、高齢者の健康づくりに力を入れているのが伺えた。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響前の話であるが、健康づくりの面で他自治体の団地では、団地の棟ごとに歩数計を配布し、マラソンを実施していた地域もある。</p> <p>団地の中の環境整備などを通じて外に出る機会の仕組みを作り、健康づくりに繋げていく取組みを実施している地域もあった。</p> <p>団地には、様々な世代の方がいらっしゃるの、世代間の交流にもなっていた。</p> <p>○ まいど～宅配事業について、新型コロナウイルス感染症の影響と記載があるが、利用が増加するのが一般的だと思うが減少した理由がわかるか。</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症に加え団地の建替えを実施しているためその影響もあると思われる。また、市内全域ではなく、団地が対象となっている。</p> <p>● 減少した理由について、詳細は把握していない。</p> <p>○ 防災士資格取得助成事業について、資格取得後の受け皿はあるのか。</p> <p>● 地域での災害訓練等で活躍してもらうことが目的であると聞いている。</p> <p>○ 訓練計画の策定など防災士の資格を持っていないとできないことがあるのか。</p> <p>● 国家資格等ではないためないと思われる。災害時や訓練時に市と市民の間の橋渡しの存在であると考えている。</p> <p>○ 資格取得後に市の防災イベントや訓練でリーダーをしてもらうなど仕組みづくりがないと取得希望者は増えないと考える。</p> <p>● 自主防災組織の災害訓練でリーダーとして活躍してもらうことが目的である。</p> <p>○ ゲートキーパーの育成の充実を図り、周知を図るとあるが、自殺志願者とゲートキーパーの接点を見つける仕組みはあるのか。</p> <p>● ゲートキーパーの養成講座を受けることで自殺志願者のサインに気付くことができるようになるための講座である。</p> <p>○ 専門職だけでなく、地域の方が日常生活の中で自殺志願者のサインに気付いていただき、専門機関に繋ぐといったプロジェクトである。</p> <p>市民に周知するとあるが、薬剤師等の専門職は対象となっているのか。</p> <p>● 専門職を対象から外してはいないと思われる。ゲートキーパーの役割と講座を受けてもらうための周知をしていく。</p> <p>○ 年に何回開催しているのか。</p> <p>● 1回である。</p> <p>○ シルバー人材センターについて、会員数を増やしていく方向のようであるが、企業の定年退職後の雇用については、企業の方で受け皿が増えてきているため、シルバー人材センターの会員数を増やす必要がないと思っている。シルバー人材センター設立時よりも必要性が薄れてきていると感じている。</p> <p>企業や団体が高齢者を受け入れる体制が整うことが一番望ましいと考えている。</p> <p>議会で問題となっていたが、何が問題となっていたのか。</p>
--	---

